

5. 予算および主要課題

水産試験場

事業名	平成13年度予算(当初)
水産試験場運営費	34,933千円
試験研究調査費	22,314
(湖産アユ総合対策調査研究費)	(6,000)
(温水性魚貝類の増養殖対策調査研究費)	(5,800)
(外来魚の資源抑制と利用に関する調査研究費)	(2,690)
(漁場環境動向調査費)	(2,390)
(増養殖技術研究費)	(3,116)
(漁況予報調査研究費)	(1,062)
(漁場環境調査研究費)	(1,256)
水産技術普及指導費	181
職員費	199,513
計	256,941千円

水産課計上分

事業名	平成13年度予算(当初)
栽培漁業総合推進対策費	1,734千円
漁場環境保全対策費	412
養殖漁業振興事業費	3,340
水産資源保護増殖対策費	2,000
淡水真珠振興対策費	2,000
計	9,486千円

農村整備課計上分

事業名	平成13年度予算(当初)
生き物共生型水路整備調査費	2,000千円
計	2,000千円

平成13年度主要事業一覧表

事業名	事業概要
湖産アユの質的保全に関する総合調査研究	<p>琵琶湖産アユ苗の河川放流効果をより高めるための技術開発を実施する。また、仔稚魚期の生態や漁獲アユの特性を把握する。</p> <p>1. 種苗の育成・放流技術開発：①種苗の育成技術開発 ②アユ種苗放流試験 2. アユの初期成育機構の解明：①仔稚魚期の分布と発育 ②漁獲アユの特性調査</p>
アユの重要疾病予防対策試験	<p>アユ養殖の魚病対策として、効果的な治療方法の研究やワクチン、免疫賦活剤等による予防対策技術の確立を目指す。</p> <p>1. 実態調査 2. 冷水病対策試験 3. シュードモナス病対策試験</p>
温水性魚貝類の増養殖対策調査研究	<p>温水性魚類の資源回復手段として、水生生物の生活空間や餌料生物にとって重要な沿岸帯について生産機能等の調査研究を進める。ニゴロブナ、ホンモロコ、セタシジミについて、一層効果的な大量種苗生産方法の研究を進める。またバイオテク技術を応用してニゴロブナ、ホンモロコの養殖品種の開発を進める。さらに淡水真珠について、より優良な形質を持つ母貝の作出・評価を行う。</p> <p>1. 沿岸帯の温水性魚類生産機能修復再生研究 2. 栽培技術効率化研究 3. バイテク応用技術開発研究 4. 淡水真珠対策研究</p>
外来魚の資源抑制と利用に関する調査研究	<p>近年、急増しているブルーギル等の外来魚は在来魚の卵稚仔を食害するほか、餌や生息域が競合するなど、多大な影響を及ぼしているため、ブルーギルの効果的な抑制・駆除方法を開発する。また未利用資源である外来魚の加工技術の開発と利用の促進を図る。</p> <p>1. 外来魚捕獲技術開発 2. 繁殖阻止技術開発 3. 外来魚資源動向調査イサザの再生産助長技術の確立 4. 外来魚等の新規加工品の開発</p>
漁場環境動向調査	<p>近年の漁場環境は、漁網の汚れの増加、プランクトンの異常繁殖、水草の増加等悪化が著しい。このため、漁場環境の悪化の実態把握とその原因究明調査を実施する。</p> <p>1. 漁場環境の悪化実態把握調査 2. 内湖の漁場環境調査 3. 産卵繁殖場魚類生息環境調査</p>